

2023年9月6日

山口県知事 村岡 嗣政 様

上関原発を建てさせない山口県民連絡会  
共同代表 清水 敏保  
共同代表 内山 新吾  
事務局長 原 康司

## 上関町での「中間貯蔵施設」の調査・建設に向けた手続きに 同意しないよう求める申し入れと質問

日頃の精勤に敬意を表します。

さて、上関町・西哲夫町長は、使用済み核燃料の中間貯蔵施設を巡る調査受け入れの提案を、8月2日に中国電力から受け、8月18日に上関町議会で同施設調査の受け入れの決定を表明しました。

西哲夫町長は、中間貯蔵施設の乾式金属キャスクは、「手で触ってもなんともなかった」と何度も強調しています。しかし、キャスクの中身は人体に有害な放射能です。東海第2原発や各地の原発サイトの視察用キャスクをもって安全と言い切るには無理があります。上関町に運び込まれるとされる使用済み核燃料は、5000トン規模と仮定すると広島型原爆17万発分の「死の灰」です。

原発関連施設への、核燃料（使用済みも含め）の運搬に伴う船舶事故、南海トラフなどの巨大地震・津波などの自然災害、加えて墜落などの航空機事故、有事の際には標的となる可能性がある等、これらの問題に対して、安全であるという実証はどこにもありません。上関町の住民にとどまらない西日本の住民が、放射能事故の危険性に怯えた生活を送らなくてはなりません。国や電力会社は「原発は安全」だと言い続けてきましたが、現実には2011年、3.11の過酷事故を招きました。未だに原発事故非常事態宣言を解除できないでいる東京電力福島第1原発での失敗を、絶対に繰り返してはなりません。

さらに核燃料サイクルの実施は、延期に延期を繰り返して実質破綻している状況であり、「最終」の貯蔵施設となる可能性が高いことは明らかです。

上関町では、41年前の1982年に原発建設計画が持ち込まれて以降、長きにわたって地元町民は原発への賛否によって分断され、人間関係を壊されてきました。

しかし、2011年の東京電力福島第1原発での事故を受けて上関現地の埋め立て工事は中断、再開の見通しも立たない中で、柏原・前町長の呼びかけで「原発に頼らないまちづくり」を進める動きが始まりました。高齢化過疎化への対応、若者の移住呼びかけ、子育て世代への空き家情報の提供等が行われ、成果が出始めています。

今回の西町長と中国電力の中間貯蔵施設建設を巡る動きは、ここ10年の新しい動きを台無しにする暴挙です。また原発・核問題にとどまらず、県民の安心・安全を考える上での県政全般の分岐点と考えます。

以上をふまえて、私たちは、上関町における中国電力・関西電力の中間貯蔵施設の調査に反対し、貴職に下記の申し入れと質問をします。

## 記

### 申し入れ事項

村岡山口県知事は、上関町での「中間貯蔵施設」の調査・建設に向けた手続きに同意しないください。

### 質問事項

- 1、瀬戸内海を「死の海」にする中間貯蔵施設建設を巡る動きを村岡県知事はどのように評価・認識されていますか、お尋ねします。知事は先般、インバウンド拡大のために台湾を訪問、歓迎を受けトップセールスの役割を果たされました。瀬戸内海の真ん中に核のゴミ置き場が計画されていることをどう説明されたのでしょうか。柳井市平郡自治会が「知事は同意しないでほしい」と要望しています。山口県民として、同じ思いです。一日も早く、知事の見解を知りたく思います。
- 2、これまでの知事の「エネルギー問題は、国の専管事項」として沈黙・協力する姿勢は、もはや通用しない局面に来ていると考えます。今回の計画は、上関原発計画と同じく、国のエネルギー政策・核燃料サイクル政策の破綻と矛盾を、地方自治体へ転化するものだと私たちは認識していますが、山口県知事としてのお考えをお尋ねします。

3, 上関町の西哲夫町長は、「町の財政難は、町の存続を危うくしている」として、中間貯蔵施設の調査受け入れの動機を「国からの交付金を得るため」と繰り返し明言しています。いわば、「原発と核のゴミ置き場に依存した町づくり」を政策の柱にしています。これに対して、山口県として、「原発に依存しない町づくり」のために政策的援助はできないのでしょうか。原発計画に振り回されて被害を受けた自治体に対して、被害回復の振興策を講じることは、県の大切な義務ではないのでしょうか。瀬戸内広域圏の歴史と豊かな自然の中にある上関町の、県内屈指の資源が活かせるよう、県としての政策対応を求めますが、知事はどうお考えでしょうか。

※参考資料として、東京新聞8月30日付掲載の斎藤美奈子氏のコラムを添付します。

以上

【連絡先】〒747-0035 防府市栄町 1-2-1 日本基督教団防府教会気付  
上関原発を建てさせない山口県民連絡会  
電話 080-6331-0960 (事務局次長 安藤)

※参考資料

23 特報 11版 2023年(令和5年)8月30日(水曜日)

☎

上関町ってどこ？という話からすると、山口県に下関市があるのは知ってますよね。下関があるならば、上関だってあるのよ、もちろん。周防灘に面した上関町はなかなかステキな町なのだ。近世には海上交通の要衝で、北前船や朝鮮通信使の寄港地だった。丘の上には、戦国時代、村上水軍の海賊城だった上関城跡が公園として整備され、史跡も多い。



斎藤美奈子

ここはまた、一九七四年のNHK朝ドラ「鳩子の海」の舞台になった町でもある。名物「鳩子てんぷら」や銘菓「鳩子の海」は当時のなごり。町の謳い文句は「浪漫あふれる海峡の町」「花咲く鳩子の町のこと」

その上関町が使用済み核燃料の中間貯蔵施設を受け入れる方向で動きだした。原発計画が停滞する中で地域振興策。二十三日の本紙特報面によると、調査容認を表明した町長の弁は「過疎化などで、このままでは町が存続できない」。それは違つと思えますよ町長。一度施設を受け入れたら負のイメージが定着、町が誇る海も歴史もおじゃんである。

上関町は東京からのアクセスも悪くない。岩国空港から海沿いに約五十分。朝の羽田便に乗れば午前中に到着し、町歩きも食事も楽しめる。観光のポテンシャルは十分あるのだ。「鳩子の海」の町を「核のゴミあふれる海峡の町」にしないほしい。(文芸評論家)

2023.8.30